

ID No.	311
研究課題名	新規抗ウイルス剤をめざした RNA 干渉制御物質のスクリーニング
研究代表者	供田 洋 (北里大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	原口 健 (東京大学医科学研究所・助教) 猪腰 淳嗣 (北里大学・准教授) 伊庭 英夫 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
<p>昨年度に引き続き、微生物培養物ライブラリーのスクリーニングをおこなった。医科研 宿主寄生体分野で確立された miRNA を介した RNA 干渉の評価系で、当研究室および協力研究施設で分離した真菌や放線菌の培養物ライブラリー約 4000 サンプルについて探索した。当初、3 種類の細胞モデルを用いて選択性と特異性を一度に評価していたが、予想以上にヒット率が低いため、評価方法を変更した。すなわち一次評価では miRNA の作用を抑制または増強を指標として候補サンプルを選び、次に 3 種の細胞を用いて選択性を評価した。この方法で本年度前期に真菌 2 サンプル、および放線菌 5 サンプルを候補株として選択したが、再培養で活性は再現されなかった。本年 1 月より新しい供給サンプルの評価を開始した。昨年度、天然化合物ライブラリー 952 サンプルから miRNA 活性増強活性を示す BK0052 と cyslabdan を見出したが、その後実施している微生物培養液を用いた探索ではヒットが得られていない。本アッセイ系では有色の試料が偽陽性を示す以外に、評価に影響する因子はこれまでのところ確認されていないことから、評価系の信頼性は高いと考えている。今後、高濃度のサンプルを使用するなどの対策を講じて、ヒット率の改善を試みたいと考えている。</p>	